

## ～ことばを口に出して言うこと～

2018年も間もなく終わろうとしています。また平成最後の年の瀬でもあります。来年の5月1日からは新しい年号と共に時を刻むこととなります。そして昭和に生まれた方は3つ目の時代を生きていくこととなります。今から新しい年号の発表が楽しみです。

今年も多くの方にことば療法・ことば音楽療法を学んで頂き有難うございました。全ての受講生がいつも一生懸命学んでくれることに感謝をしています。そして学ばれたことを施設や教室などで直ぐ実践されたり、子どもさんと毎日向き合いながら、少しずつことばを積み重ねていく親御さんもいます。ことばの発声がこんなにも多くの方に喜びを与えることができることを今更ながら嬉しく思います。指導者も子どもの成長を楽しみにセッションを行い、子どもから新しいことばが出るごとに一喜一憂します。それは同時に子どもから勇気と感動を与えられる瞬間であり、明日への気力にも繋がっているのです。

他方大人もことばを口に出すことが大切だとよく言われます。例えばご主人が奥さんに日ごろの感謝を伝えたいと思うが、中々ご主人はことばを口に出して言わない。奥さんにしてみれば、ことばを口に出して言わなければ伝わらないよ・・・といわれる。そんな解りきったこと言わなくても分かってほしいと思う。最近はメールなどで伝えることが多くなっているが、面と向かって感謝を口に出して言うことが夫婦円満にも繋がると思います。

子どもさんの最初の第一歩は声を発すること 第二歩はことばを出すこと、第三歩は意志疎通ができ、ことばのキャッチボールが出来るようになることです。その歩みが少しずつしかできない子どもさん・・・指導者の方は日々の療育を粘り強く積み重ねることが重要です。また自身も1日1日を大切に積み重ねていくことが、自身の目指す目標を達成することにも繋がっていくのです。来年も宜しくお願い致します。

事務局（Y・T）

## INDEX

- ことばを口に出して言うこと／事務局・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ページ
- ことばの学習支援への広がり／堀田喜久男 ● 講師よりメッセージ・・・・・・・・ 2 ページ
- 「持つべきものは」／横浜支部長 高橋亮太郎・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 ページ
- 北の大地 北海道からイランカラプテ（こんにちは）／明神優里・・・・・・・・ 4 ページ
- ことば音楽療法士・インストラクターとして／沖田陽子・・・・・・・・・・ 5 ページ
- 音楽と言葉の発達～生きる力を育むために～／兒玉貴栄・・・・・・・・・・ 6 ページ
- <コラム14> 宍戸理恵 ● 新刊書籍『知育音楽あそびうた』・・・・・・・・・・ 7 ページ
- 認定校・認定教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8 ページ

## ～ことばの学習支援への広がり～

日本ことば療法学会 委員長  
堀田 喜久男



先日NHK Eテレ「らららクラシック」を見ていて337拍子動機、ベートーベン第5シンフォニーの動機などをやっていたびっくりしました。見られた方もあったかと思えます。

先月の11月24・25日の2日間、名古屋で私と高橋亮太郎先生と  
尖戸理恵先生と3名でことばの音楽療法のセミナーを開催致しました。以前は全国各地へ出向いて  
行っていましたが、最近ではインストラクターの方がそれぞれの都市で開催されるので、受講の機  
会が増えたと思えます。また、ことば音楽療法士の資格取得の受講も各地（大阪・名古屋・福岡・  
横浜など）で可能となりました。最終回は私の研究所（名古屋）で行っています。

ことば音楽療法士の資格を取得された方は180名程あり（受講中も含む）、多くは障害児（者）の  
ことばの音楽療法を実践し職業として働いておられます。多くの障害児（者）のことばや学習の支  
援につながっていることを嬉しく思います。

### 6月9日（土曜日）の日本ことば療法学会（東京）の 講習会レポートへのメッセージが講師より届いています。

#### 第1講：ことばの育て方＜前半＞ ＊ 徳田和恵

今回、お話をさせていただくにあたって、実際の指導・訓練というより、概念枠からの入りという構  
成にしてみたいと、考えたのですが、それで納得いただけるのか、心配でした。でも、レポートを拝  
見しまして、こんな大枠の話を、皆様それぞれで、自分の視点で再構成して消化されていることに感  
激しました。

日々子どもさんたちとの時間は、あっという間に過ぎゆき、発見・感動の一瞬の連続と、一方で、  
整理付かないモヤモヤが持続している場面も多いのではと思います。時間が許すときには、どうぞ時  
折立ち止まって眺めなおしてください。理論と実践が溶け合うのはそんな時かもしれません。

#### 第2講：コミュニケーションをとれるということ ＊ 後藤浩子

皆様の感想をありがとうございました。お一人お一人が、今かかわっている対象者のことを考えな  
がら、聞いてくださっていることが伝わってきました。“困っている”子どもさんのことを理解して、  
そのお子さんに合った支援ができるように、努力しておられる皆さんに頭がさがります。私も子ども  
さんや保護者の皆さんのニーズに応えられるよう、これからもことばと社会性のことを考えながら、  
音楽の利用の工夫を考えていきたいと思いました。

#### 第3講：ことば音楽療法＜前半＞ ＊ 堀田喜久男

ことばの音楽療法の前半部分の講習レポートを読んで、はじめて受講された方は基本構造をよく  
理解して書いてありました。

基本的リズムフレーズの構造から、抑揚の基本形、日本語の音節の種類など。実践の内容では1  
音節（語）から多音節語。体の部位の歌。玩具の歌。2語文の歌などよく理解して書いてありまし  
た。複数回受講している方からは自身の実践している事との関連で、子どもがいろいろ出来るよう  
になった。もっと事に留意してやらねば～。と意欲的な事などが多く書いてありました。読んでい  
て私もうれしくなりました。

# 持つべきものは

横浜支部長 高橋 亮太郎

早いもので、2018年も暮れようとしています。大雨・台風・大地震と自然災害に振り回された感の強い1年でしたが、皆さまにとってどんな1年でしたでしょうか。

年末は振り返りの時期でもあります。毎年この時期は「今年の10大ニュース」に憤ったり羨ましがったり同情したりするのが恒例の風景です。でもせっかくですから社会だけでなく、自分の身に起きたことも原因を考えてみるのも意味があります。良きも悪きも原因がわかれば来年の良い出来事にもつながって勝ちグセを作り、悪いことを未然に防げるかもしれません。何事もたどって見ると、良くも悪くも局面となる一瞬での自分の選択と判断が原因にあります。「ああ言えば結果が違ったかも」「あそこで我慢して本当に良かった」「どうしてあの時こっちを選んだ…」など。考えてみると今という瞬間は、過去の選択の結果であると同時に良い未来の勝利の原因を作ることでもある、高い可能性を秘めているのです。だからこそ数年前「今でしょ！」が流行ったのでしょうか。

今秋は「自己責任」論が飛び交いましたが、何かが上手くいくかどうかは自分の努力と信念・選択と判断だけでは決まりません。運も大事な要素です。ただし、これを他人任せにするかどうかで結果が変わってきます。Jリーグ2部（J2）のある監督が十年前言っていました。ギリギリの局面で幸運を呼ぶのは普段「あと1ミリの努力」をどれだけ積み重ねられるかにかかっているそうです。例として、いかに小さなファウルを犯さずに相手からボールを奪い取れるか、を挙げていました。今年のロシアW杯で日本がファウルの少なさで決勝トーナメントに行けたのはただの幸運ではなく、Jリーグ全体でこのような努力を20年以上積み重ねてきたことがあのハンパない戦いを生んだともいえます。

また成否を分けるポイントとして、どういう人が周りにいるかも重要です。会社の金を横領し続けてヴィトンに2億円つぎ込んだおばちゃんや、飲酒運転を続けて事故を起こしたタレントもきっと途中で何度も「もうやめなきゃ」と思ったことでしょうか。周囲に相談できる人が居なかったのも原因の1つだと思います。そして欲に流され続けた挙句あのようなになりました。「一瞬の判断が人生を分ける」といいますが、その一瞬に負け続けるとどうなるか、多くを教えてください。N産も、ナンバー2にトップを制御できる人を置いていけばあんな事にはならず済んだことでしょうか。昔を振り返れば、かの豊臣秀吉も賢者の弟を病で失い軍師官兵衛を遠方へ追いやり、利休を処刑した後のまつりごとは、武士・民衆・身内そして国全体を不幸へ巻き込んでいきました。

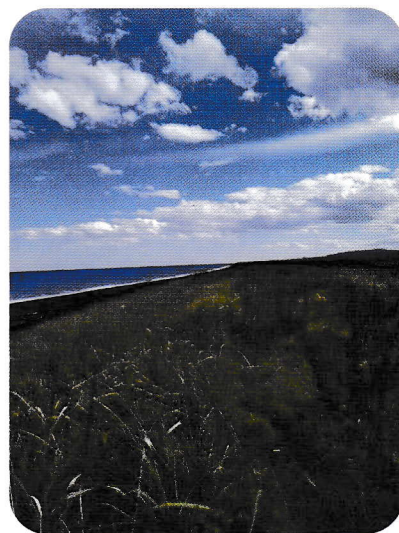
結局のところ学べることは、誰の人生にも「良き師・良き友・良き家族」が必要ということなのでしょう。必要どころか、自分には無い最善の選択肢を提供してくれるかもしれません。メディアを賑わせた渦中の人々は、自分の周りの人の重要性を考える機会を与えてくれているように感じます。「カネ持ちよりヒト持ち」と言われるゆえんです。

こういうご時勢ですから全部が上手くいってしょうがない、という人はまずいません。いても周りが見えていない単なるオメデタ野郎だったりします。竹内まりやの歌で「チャンスは何度でも訪れてくれるはず」というフレーズがありましたが、たとえ何か上手くいかなかった事があっても、元気をだしてまた一歩を踏み出すことで、みんなを振り返らせる何かが自分の中から出てくるかもしれません。再チャレンジのパワーの源泉は人それぞれですが、3連休、年末年始、10連休GWとまとまった時間があればどんどん人に会って、自分のネットワークを豊かにしながら成長していきたいものです。来年も頑張りましょう。

## ～北の大地 北海道から イランカラプテ（こんにちは）～

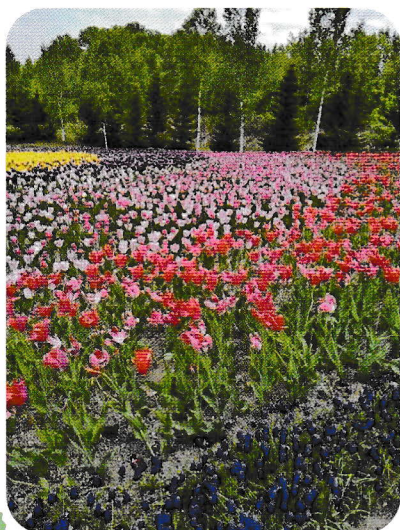
明神 優里

北海道開拓から150年の年月が流れ、平成30年は厚真町（あつまちょう）を中心に強い地震に見舞われました。復興途上にある中、初雪を知らせる小さな妖精 雪虫が『冬がくるよ』と囁き飛び回ります。北海道は日本全国から開拓民が入り、先住民であるアイヌの人々から生きる知恵を学びました。北海道の内陸部では夏は30度を超え、冬は-40度（厳しく冷え込む）超えを記録することもあり、人間が生きていくには厳しすぎる自然環境の中、不毛の地を開拓し今の社会を築きあげてきました。



言葉も、それぞれの地方の方言を使い暮らしてきました。例えば開拓時代は『じょっぴんかけて』（木の棒を斜めに立て置き 玄関が開かないようにすること）、現在は『内地に行く』（本州に行く）、『おぼんでございます』（こんばんは）、『しばれる』（厳しく冷え込む）、『こわい』（疲れる）、『手袋をはく』（手袋をする）などの方言が使われています。現在地球上には、約6,500種類の言語が存在すると考えられ、北海道先住民のアイヌ語など消えつつある言語もあり、復興のための取り組みが始められています。紙やペン、そして電気のない生活をしていたアイヌ人は我々の暮らしとは全く異なる生活をしていました。夜は星々が輝き、森や山で暮らす動物や鳥の生活の音、川のせせらぎや海の波の音、自然に囲まれた人々の生活は表現に満ち溢れ、人間を豊かに成長させる土地がしっかりと息づいていました。

それでは固有の文字を持たないアイヌ人は、どのように英雄の物語（ユカラ）、神々の物語（カムユカラ）、昔話（ウエケペレ）など次の世代へ継承したのでしょうか。それは長い時間の流れの中で受け継がれた『口承文芸』でした。そこには音節とリズムを巧みに使い、長老が語るユカラは、子どもへと脈々と伝わっていきました。



この音節とリズムは先住民の生きる知恵であり、発語を促す音楽療法は、まさに人類の宝物を掘り起こし、現代社会に蘇えらせたと言っても過言ではないでしょう。堀田喜久男氏が長年取り組まれてきた研究は、人々が忘れかけていた知恵 「音節とリズム」を日々の生活の中で取り戻すことで、ことばが出ないスペシャルな子どもだけではなく、すべての人に生きる活力を与える基礎となるでしょう。

～スイ ウヌカラ アン ロ～（またお会いしましょう）

## 「ことば音楽療法士・インストラクターとして」

どれみだんけ2号店 沖田 陽子

児童発達支援・放課後等デイサービス どれみだんけ1号店は開所して4年と4ヶ月、2号店はちょうど3年になり、現在1号店、2号店それぞれに4名のことば音楽療法士が在籍しており、どれみだんけは開所よりとてもたくさんのお子たちに ことば音楽療法のセッションを行なってきました。

私自身は、ことば音楽療法士インストラクターの資格を頂いてから3年になり、2号店に月曜日から金曜日に来所している子どもたちへのことば音楽療法のセッションだけではなく、これからことば音楽療法士を目指す とてもたくさんの方々と出会う機会に恵まれています。その時々によりマンツーマンでのスクーリングや、同じ事業所から受講しておられる二人の方と、

またある時は、それぞれ個人で申し込まれた総勢10名以上の方々とごいっしょに、ということもあり、どのスクーリング受講生の方も「自分たちの手で、いま関わっている子どもたちに言葉を！」と、希望と情熱にあふれておられ、いつもそのエネルギーを頂きそして刺激を受けています。

人前での初めての実技練習では、ピアノに向かう指やうた声を震わせながら緊張しておられた方も スクーリング終了時のセッション実技では堂々と立派に先生をこなすことが出来るようになっておられ、その上達ぶりがとても頼もしく、そしてその並々ならぬ努力にいつも感心させられています。

私自身は、受講しておられる方にできるだけわかりやすく「どうして？」と疑問が残らないように説明するように努め、堀田先生の言葉をお借りしたり 先生の実際のセッションでの言葉かけを紹介するなど ことば音楽療法・堀田メソッドを忠実にお伝えできるよう努めています。

10月には大阪で第1回関西連絡会が開催されましたが、スクーリング受講生だった方がたが、今では放課後等デイサービスなどのご自分たちの事業所で ことば音楽療法の素晴らしさを実感しながら活躍されているお話をたくさん聞き、インストラクターとしての喜びを感じたものです。これからもさらに ことば音楽療法士を志す方が増え、その輪が広がり 子どものためだけではなく幅広い世代に、ことば音楽療法のセッションが展開されていくよう願います。



# 音楽と言葉の発達～生きる力を育むために～

music room SORA 児玉 貴栄

2008年11月娘の誕生。21トリソミー（ダウン症）があり、生後すぐ検査や入院が続きました。障がいがあってもこの世に生まれてきてくれた娘が愛おしくてたまりませんでした。退院後、娘の発達に少しでもいいことをやりたい！と療育を探し求めて、病院やりハビリや療育園に何か所も通いました。家庭で出来ることもインターネットで調べ、とにかくいいと思う事は何でも取り入れてきました。おかげさまで健康状態も安定し、運動発達も伸びてきましたが“言葉の発達”が極端にゆっくりな事が気がかりでした。哺乳力も咀嚼力も弱く、離乳食もかなり苦労しました。発語はあるものの発音の不明瞭さがあり、なかなか伝えたいことが相手に聞き取ってもらえない。娘のもどかしそうな表情を見ていると“言葉で自分の気持ちを伝える”ことが出来たらもっと生きやすくなるだろうなと思っていました。

そんな時、“ことば音楽療法”を知り、2015年名古屋セミナーを受講しました。すごい！と思いつつながら生活の忙しさに追われてそのままの状態になっていました。このままではいけない！意を決して2017年7月名古屋の堀田先生の研究所に通い多くを学びました。何もかもが“目からうろこ”でした。堀田先生のこれまでの多くの経験をお聞きしたくさんのパワーをいただき“ことば音楽療法士”を取得することができました。

娘には生活の中で“ことば音楽療法”を活用しています。言葉がどんどん増えてきて今では“しりとり”をすると私が負けてしまう事があるほどです。時計の歌、お金の歌、数の概念など実際に“生きる力”を身に着けていけるよう取り組んでいます。障がいがあるからできない！ムリ！！と親が決めてしまったら子どもの発達の伸びはそこで減ってしまうと思うのです。やりたい事は障がいを理由に諦めるのではなく何にでもチャレンジする！！と決めています。

私の人生には常に音楽があります。4歳でピアノ、12歳でフルートに出会い音楽大学卒業をしてからは演奏活動と音楽講師をしています。“音楽の力”は無敵大です。心を豊かにしてくれます。その音楽が言葉の発達にも通じる場所があるなんて本当にすごい療法です。

岐阜県ではまだ“ことば音楽療法”が浸透されておらず私もまだ仕事としては結びついておりません。この素晴らしい“堀田メソッド”を言葉の発達に悩む方たちに届けていきたい。このたび思い切って教室を移転することにしました。2019年3月新規教室OPENに向けて現在準備中です。言葉の発達に悩む方たちが、自分に自信を持ち、楽しく社会参加し“生きる力を育む”手助けができるよう、岐阜県初の一般社団法人発達支援協会 ことば音楽療法 認定教室として私も常に学び続けていきます。

“学びは楽しい”



## コラム14

穴戸 理恵

～♪いっぽんばし こーちょこちょ たたいてちみくって（つねって）  
なでなでして かいだんのぼって こちょこちょ～

このわらべうたあそびで（この曲の構成音はラ、ソ、ミ。方言等、地域により歌詞の違いもある。）こちょこちょしてもらうのが大好きな子がいる。セッションの途中でお母さんに「こちょこちょ」とせがむこともよくある。

きらきらぼし（ウンチャウンチャ）の声を出すところで音楽を止め、文章であるが「ママ、こちょこちょしてください」と話すようにし、そのあと解決和音連打で「こちょこちょ～」とくすぐることをしてみた。こちょこちょをしてほしいので、つかえながらもがんばって話すことができた。また「パパだっこして」「ママだっこして」「ぼくのなまえは〇〇です」なども行い、発語につながった。

『きらきらぼしウンチャ』は1音節、単語どころか文章も、楽しい雰囲気の中で話すことに前向きになれる手立てであるようだ。

「こちょこちょ」は大好きなお母さんとのスキンシップができる。その時のこの子の顔は幸せいっぱいの顔をしている。おとうさんにもお母さんにも（祖父母にも）とても愛されている。みんなの「かわいい子」である。

子ども自身が幸せを感じて生きて行ってほしい。子どもに幸せになってもらいたい。

不安や心配なことがある時、「大変だね」

「それは心配だね」「どうするの?」とか言われるよりも、誰かに「大丈夫だよ!」と言ってもらいたいものである。

社会全体でいろんな「大丈夫」がたくさん今以上につくられて行ってほしい。いろんなノウハウや体験談、情報、理解、居場所、改革、柔軟な思考。みんなが幸せになるように。

「大丈夫」を時にいただきながらも、微力で些細なことでも社会の中で役立つことを作っていけるとよいと思っている。

### 穴戸理恵の著書

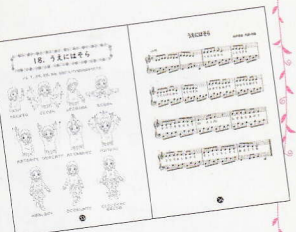
商品番号▶B111

～保育・療育・ことば・子育て支援など、  
いろいろな場面でつかえる～

### ♪知育音楽あそびうた



A4判/93ページ  
発達支援協会 叢書9



価格：2,160円(税込)

著者：穴戸理恵

イラスト：TAKAKO

# ● 一般社団法人 発達支援協会 認定校・教室 ●

## 認定校

名古屋市【発語音楽研究所】

療育責任者：堀田喜久男

(発語音楽療法←検索)

## 認定教室

- 1 大阪府【さゆり音学院】 主宰者：土田靖子
- 2 愛知県【SiSiDo Music room】 主宰者：央戸理恵
- 3 京都府舞鶴市【でんでんむしの会】 主宰者：松浦光子
- 4 三重県【樋口音楽教室】 主宰者：樋口なおみ
- 5 福岡県行橋市【ことばの音楽教室】 主宰者：工藤知子
- 6 福岡県遠賀郡【りずむの木】 主宰者：石井純子
- 7 京都府舞鶴市【さがん発語音楽教室】 主宰者：目美香
- 8 大阪府枚方市【安宅ことば音楽療法教室】 主宰者：安宅千世子
- 9 東京都江戸川区【ことば音楽療法 あ・い・う・え・お】 主宰者：嬉 利恵
- 10 愛知県碧南市【ひだまり教室】 主宰者：小笠原清恵
- 11 福岡県行橋市長木【ことばの♪パッソ♪教室】 主宰者：松尾範子
- 12 兵庫県芦屋市【きじ猫 音楽工房】 主宰者：上野奈央
- 13 愛知県常滑市【長鎌音楽教室】 主宰者：長鎌明美
- 14 大阪市都島区【音楽セラピーみゅーじっくらんど】 主宰者：末吉裕美
- 15 大阪市平野区【一般社団法人みらい ぴっころ】 管理者：森嶋裕子
- 16 岐阜県大垣市【music room SORA】 主宰者：兒玉貴栄
- 17 千葉県習志野市【千葉ことば音楽教室】 主宰者：小林紳一



music room SORA

※各教室へのご連絡はホームページ『ことば音楽療法』をご覧ください。

ことば音楽療法士 認定者 ▶175名 (受講中も含め) H30年11月現在

ことば音楽療法の認定校・教室です。教室か事務局にお問い合わせください。  
認定校・認定教室を全国にて募集しております。 TEL & FAX : 052 (505) 5255

一般社団法人 発達支援協会 事務局

〒452-0821 名古屋市西区上小田井2-98 JHTA内 TEL & FAX : 052 (505) 5255

ことば音楽療法 日本ことば療法学会

検索